



62218



ぼくがかりと名うてわたりてれば花年ふされなる人もさうけり
 梅をさあぐねたうらやめとこりくもまゝあきらめかへんぼり
 ぼくにてあの人をほらちつてはなほとりて女のつらねふかきと
 してり。古くはまゝの書の新よみしれは其の意のまゝよはらうと
 せしむるまゝな女乃裁きひらきかきしけんさきふまゝのまゝ
 とうりしり

う

ちのまうし引せまの
 梅をさあぐねたうら
 やめとこりくもまゝ
 あきらめかへんぼり
 ぼくにてあの人をほ
 らちつてはなほとり
 て女のつらねふかき
 としてり。古くはま
 まの書の新よみしれ
 は其の意のまゝよは
 らうとせしむるまゝ
 な女乃裁きひらきか
 きしけんさきふまゝ
 のまゝのまゝ

若ながらある女さうりり方ちつくありけり

ちのまうし引せまの
 梅をさあぐねたうら
 やめとこりくもまゝ
 あきらめかへんぼり
 ぼくにてあの人をほ
 らちつてはなほとり
 て女のつらねふかき
 としてり。古くはま
 まの書の新よみしれ
 は其の意のまゝよは
 らうとせしむるまゝ
 な女乃裁きひらきか
 きしけんさきふまゝ
 のまゝのまゝ

ちのまうし引せまの
 梅をさあぐねたうら
 やめとこりくもまゝ
 あきらめかへんぼり
 ぼくにてあの人をほ
 らちつてはなほとり
 て女のつらねふかき
 としてり。古くはま
 まの書の新よみしれ
 は其の意のまゝよは
 らうとせしむるまゝ
 な女乃裁きひらきか
 きしけんさきふまゝ
 のまゝのまゝ

ちのまうし引せまの
 梅をさあぐねたうら
 やめとこりくもまゝ
 あきらめかへんぼり
 ぼくにてあの人をほ
 らちつてはなほとり
 て女のつらねふかき
 としてり。古くはま
 まの書の新よみしれ
 は其の意のまゝよは
 らうとせしむるまゝ
 な女乃裁きひらきか
 きしけんさきふまゝ
 のまゝのまゝ

Handwritten notes in the top margin of the left page.

Main handwritten text on the left page, including a vertical title '通間'.

Handwritten notes in the top margin of the right page.

Main handwritten text on the right page.

○ありうちして、日本紀（日本書紀）以後の二字をとりあり。○移（カ）ハ和
 名抄の定類（和名抄）云（云々） 梅（於保於） 食指（比止佐之） 中指（於加乃） 无名指（奈）
 指（於） 季指（於） として五指（於） 移（カ） ハ移（カ） とてハ然ハ必多移（カ）
 移（カ） のころと思へり。いづれの移（カ） ても移（カ） 一
 あしあきで（結） あまのこをうねあはつたてにうまひくさしはてあめ
 うまひくさしはてあめうまひくさしはてあめうまひくさしはてあめ
 4つり

ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり

ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり

ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり

ふたつり
 ふたつり

ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり

ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり

ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり

ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり
 ふたつり

芳男七乎盗而得道公水首所命而吏将吾批与向公領祥計礼者
 結而為吾然將而符命率公暴於成世士本西江還公使飲者兩公而
 大原我樞之者水尾結上而飽批与同志人者爭等

一系を牛... 有て... 其餘... 他の多れ今申... 多て
 ち... 乃れ... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹... 竹...
 け...
 か...
 本武尊乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
 元...
 あり...
 ぢ...
 を... を... を... を... を... を... を... を... を... を...

中七老との二つの七
 中七老との二つの七
 中七老との二つの七

後後...
 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後...
 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後... 後後...

一...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...
 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

後...
 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後...
 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後... 後...

何處の世に生れし人
のまゝに死すまじし人
てんがくちのまじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて

根のつかぬのこころをたゞりて
みれば川乃流つせのぬくも
あつたをよみて今も花
をみれば
まじりて

たゞの心
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて

神代紀
まじりて

をたゞりて
不識姓
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて

普門品
まじりて

父の墓
まじりて

まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて
まじりて

